

四半期報告書

(第53期第1四半期)

自 平成21年4月1日
至 平成21年6月30日

パナホーム株式会社

(E 00624)

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	3
2 事業等のリスク	3
3 経営上の重要な契約等	3
4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4

第3 設備の状況	6
----------	---

第4 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) ライツプランの内容	7
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(5) 大株主の状況	7
(6) 議決権の状況	8

2 株価の推移	9
---------	---

3 役員の状況	9
---------	---

第5 経理の状況	10
----------	----

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	11
(2) 四半期連結損益計算書	13
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14

2 その他	19
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報	19
-------------------	----

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年8月11日
【四半期会計期間】	第53期第1四半期（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）
【会社名】	パナホーム株式会社
【英訳名】	PanaHome Corporation
【代表者の役職氏名】	取締役社長 上田 勉
【本店の所在の場所】	大阪府豊中市新千里西町1丁目1番4号
【電話番号】	（代表）（06）6834-5111
【事務連絡者氏名】	経理担当 執行役員 北川 賀津雄
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿2丁目3番1号
【電話番号】	（代表）（03）6863-6111
【事務連絡者氏名】	東部営業経理部長 北野 幸治
【縦覧に供する場所】	パナホーム株式会社東京支社 （東京都新宿区西新宿2丁目3番1号） パナホーム株式会社神奈川支社 （横浜市都筑区中川中央1丁目28番9号） パナホーム株式会社名古屋支社 （名古屋市名東区一社1丁目83番地） パナホーム株式会社神戸支社 （神戸市中央区京町69番地） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第53期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第52期
会計期間	自平成20年4月1日 至平成20年6月30日	自平成21年4月1日 至平成21年6月30日	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日
売上高(百万円)	48,866	46,569	284,625
経常損益(百万円)	△4,080	△4,026	9,559
四半期(当期)純損益(百万円)	△3,166	△2,696	2,947
純資産額(百万円)	112,927	113,530	117,437
総資産額(百万円)	204,752	195,449	202,854
1株当たり純資産額(円)	666.72	670.91	693.93
1株当たり四半期(当期)純損益 金額(円)	△18.83	△16.04	17.53
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	—	—	—
自己資本比率(%)	54.7	57.7	57.5
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△5,569	△12,199	7,548
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,534	619	1,990
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△1,769	△1,330	△4,232
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	43,437	41,614	54,524
従業員数(人)	5,196	5,142	5,076

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第52期第1四半期連結累計(会計)期間及び第53期第1四半期連結累計(会計)期間については1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、第52期については、潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年6月30日現在

従業員数（人）	5,142
---------	-------

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であります。
2. 平均臨時従業員数は、臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満であるため記載を省略しております。

(2) 提出会社の状況

平成21年6月30日現在

従業員数（人）	4,348
---------	-------

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であります。
2. 平均臨時従業員数は、臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満であるため記載を省略しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績は、次のとおりであります。

区分	金額（百万円）	前年同四半期比（%）
住宅事業	15,759	78.5

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、消費税等を含んでおりません。
2. 当社グループの製造部門における部材生産額を記載しております。

(2) 受注状況

当第1四半期連結会計期間における受注状況は、次のとおりであります。

区分	受注高（百万円）	前年同四半期比（%）	受注残高（百万円）	前年同四半期比（%）
住宅事業	62,196	93.2	139,186	85.0

- (注) 金額は販売価格によっており、消費税等を含んでおりません。

(3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績は、次のとおりであります。

区分	金額（百万円）	前年同四半期比（%）
住宅事業	46,569	95.3

- (注) 1. 金額は消費税等を含んでおりません。
2. 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

2【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第1四半期のわが国経済は、景気停滞の局面から脱し切れておらず、企業業績の低迷や雇用不安など厳しい状況にありました。

住宅市場では、住宅ローン減税の拡大や贈与税の軽減措置など住宅取得を優遇する政策が次々と打ち出されましたが、金融危機による不動産投資資金の減少による地価の下落や個人所得に改善が見られない等、本格的な住宅購入意欲の回復までは至らず、厳しい状況が続きました。

このような事業環境のなか、当第1四半期につきましては、本格稼働の時期を迎えた宿泊体験モデルハウスの積極展開ならびにパナソニック電器店様との関係づくり強化に注力しました。また、環境意識が高まるなか、「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック2008」大賞受賞で評価された省エネ技術のお客様への訴求を徹底するとともに、政府補助金制度を活用した太陽光発電システムの100%提案による搭載率アップなど販売強化を推進しました。一方、費用につきましては、経営全般にわたるコスト合理化を行い、収益力の強化に努めました。

以上の結果、当第1四半期連結の業績につきましては、売上高は、前年10月以降の受注が低迷したことにより、前年同期比95.3%の465億6千9百万円となりました。営業利益につきましては、販売費及び一般管理費の削減はしたものの売上高の減少により、前年同期比7千6百万円悪化の△36億4千6百万円、経常利益は持分法による投資損失の改善により、前年同期比5千4百万円改善の△40億2千6百万円、四半期純利益は特別損失の減少により、前年同期比4億7千万円改善の△26億9千6百万円となりました。

（2）財政状態の分析

①資産、負債及び純資産の状況

当連結第1四半期末における資産総額は、1,954億4千9百万円であり前連結会計年度末比74億5百万円減少しました。その主な要因は、仕掛工事増加等によりたな卸資産が64億5千5百万円増加した一方、現金預金が69億3千万円、有価証券が70億5百万円減少したことによるものです。

負債総額は、819億1千8百万円であり前連結会計年度末比34億9千9百万円減少しました。その主な要因は、仕掛工事増加に伴い未成工事受入金が53億2千8百万円増加した一方、支払手形・工事未払金等が80億4千1百万円減少したことによるものです。

純資産合計は、四半期純損失26億9千6百万円の計上や配当金の支払等により前連結会計年度比39億7百万円減少した結果1,135億3千万円となり、自己資本比率は57.7%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当連結第1四半期末の現金及び現金同等物の残高は、416億1千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ129億1千万円減少いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、未成工事受入金の増加（53億2千8百万円）などにより資金の増加があった一方、税金等調整前四半期純損失40億3千8百万円およびたな卸資産の増加（64億4百万円）、仕入債務の減少（80億4千万円）などにより、121億9千9百万円の減少となり、前年同期に比べて66億3千万円減少いたしました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却及び償還による収入などの資金の増加（10億5百万円）と有形固定資産・無形固定資産の取得による支出などの資金の減少により6億1千9百万円の増加となりました。その結果、前年同期に比べて9億1千5百万円減少いたしました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額（12億6千万円）などにより、13億3千万円の減少となりました。その結果、前年同期に比べて4億3千9百万円増加いたしました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間の研究開発費の総額は、3億3千万円であります。

なお、当第1四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度末に計画した重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	596,409,000
計	596,409,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成21年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成21年8月11日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	168,563,533	168,563,533	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部	単元株式数は 1,000株
計	168,563,533	168,563,533	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年4月1日 ～平成21年6月30日	—	168,563	—	28,375	—	31,953

(5)【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成21年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成21年6月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 440,000 (相互保有株式) 普通株式 68,000	—	単元株式数は1,000株
完全議決権株式 (その他)	普通株式 166,727,000	166,727	—
単元未満株式	普通株式 1,328,533	—	1単元 (1,000株) 未満の株式
発行済株式総数	168,563,533	—	—
総株主の議決権	—	166,727	—

② 【自己株式等】

平成21年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) パナホーム(株)	大阪府豊中市新千里西 町1丁目1-4	440,000	—	440,000	0.26
(相互保有株式) (株)パナホーム北関東	栃木県宇都宮市平出町 4067-3	12,000	—	12,000	0.00
(株)パナホーム山梨	山梨県甲府市上石田4 丁目12-1	9,000	—	9,000	0.00
神奈川西パナホーム(株)	神奈川県平塚市明石町 2-14	1,000	—	1,000	0.00
(株)パナホーム多摩	東京都立川市栄町4丁 目13-3	1,000	—	1,000	0.00
(株)パナホーム静岡	静岡県浜松市中区砂山 町324-8	21,000	—	21,000	0.01
京都パナホーム(株)	京都市山科区西野櫃川 町50-1	19,000	—	19,000	0.01
(株)パナホーム伊賀	三重県名張市美旗町池 の台東6	3,000	—	3,000	0.00
(株)パナホーム兵庫	兵庫県姫路市三左衛門 堀西の町205-2	1,000	—	1,000	0.00
(株)パナホーム大分	大分市中島西3丁目5 -1	1,000	—	1,000	0.00
(相互保有株式小計)	—	68,000	—	68,000	0.04
計	—	508,000	—	508,000	0.30

(注)なお、当第1四半期会計期間末日現在、(株)パナホーム多摩が保有していた相互保有株式はすべて市場売却しております。

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年4月	5月	6月
最高（円）	632	554	602
最低（円）	540	519	508

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3【役員の状態】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員および専任の執行役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

なお、前第1四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年6月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表については、監査法人トーマツによる四半期レビューを受けており、また、当第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

なお、監査法人トーマツは平成21年7月1日付で有限責任監査法人に移行したことに伴い、名称を有限責任監査法人トーマツに変更しております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	19,614	26,544
受取手形・完成工事未収入金等	3,201	3,399
有価証券	23,000	30,005
未成工事支出金	10,709	6,004
販売用不動産	57,548	56,097
商品及び製品	1,286	986
仕掛品	42	30
原材料及び貯蔵品	143	156
その他	8,805	7,909
貸倒引当金	△58	△65
流動資産合計	124,293	131,068
固定資産		
有形固定資産		
土地	20,985	21,050
その他(純額)	18,630	18,863
有形固定資産計	※1 39,615	※1 39,914
無形固定資産	2,664	2,808
投資その他の資産		
投資有価証券	10,441	10,770
その他	19,383	19,244
貸倒引当金	△948	△952
投資その他の資産計	28,875	29,062
固定資産合計	71,156	71,786
資産合計	195,449	202,854

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	25,503	33,544
短期借入金	123	124
未払法人税等	118	375
未成工事受入金	19,491	14,163
賞与引当金	1,247	2,961
売上割戻引当金	47	7
完成工事補償引当金	3,427	3,550
その他	12,353	11,212
流動負債合計	62,312	65,939
固定負債		
長期借入金	3,090	3,090
退職給付引当金	4,361	4,258
その他	12,154	12,129
固定負債合計	19,606	19,478
負債合計	81,918	85,417
純資産の部		
株主資本		
資本金	28,375	28,375
資本剰余金	31,983	31,982
利益剰余金	59,234	63,187
自己株式	△252	△247
株主資本合計	119,341	123,298
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	194	107
土地再評価差額金	△6,770	△6,766
評価・換算差額等合計	△6,575	△6,658
少数株主持分	765	796
純資産合計	113,530	117,437
負債純資産合計	195,449	202,854

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
売上高	48,866	46,569
売上原価	37,607	36,436
売上総利益	11,259	10,133
販売費及び一般管理費	※1 14,829	※1 13,780
営業損失(△)	△3,570	△3,646
営業外収益		
受取利息	91	69
受取配当金	10	5
その他	161	80
営業外収益合計	264	155
営業外費用		
支払利息	64	50
持分法による投資損失	634	432
その他	75	52
営業外費用合計	774	535
経常損失(△)	△4,080	△4,026
特別利益		
固定資産売却益	0	0
貸倒引当金戻入額	—	7
特別利益合計	0	8
特別損失		
固定資産除売却損	28	17
減損損失	1	2
たな卸資産評価損	353	—
特別損失合計	383	20
税金等調整前四半期純損失(△)	△4,463	△4,038
法人税、住民税及び事業税	40	—
法人税等調整額	△1,249	—
法人税等	—	△1,312
少数株主損失(△)	△87	△30
四半期純損失(△)	△3,166	△2,696

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△4,463	△4,038
減価償却費	647	734
たな卸資産評価損	353	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,819	△1,714
受取利息及び受取配当金	△102	△74
支払利息	64	50
持分法による投資損益(△は益)	634	432
売上債権の増減額(△は増加)	948	303
たな卸資産の増減額(△は増加)	△10,919	△6,404
未収入金の増減額(△は増加)	5,560	—
仕入債務の増減額(△は減少)	△5,212	△8,040
未成工事受入金の増減額(△は減少)	8,392	5,328
未払費用の増減額(△は減少)	3,955	4,339
その他	△3,369	△2,986
小計	△5,329	△12,071
利息及び配当金の受取額	135	112
利息の支払額	△74	△66
法人税等の支払額	△301	△173
営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,569	△12,199
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却及び償還による収入	1,706	1,005
有形固定資産の取得による支出	△153	△317
有形固定資産の売却による収入	4	13
無形固定資産の取得による支出	△205	△256
投資有価証券の売却及び償還による収入	15	10
貸付金の回収による収入	179	137
その他	△12	26
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,534	619
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△500	△1
自己株式の取得による支出	△6	△5
配当金の支払額	△1,261	△1,260
ファイナンス・リース債務の返済による支出	—	△61
その他	△1	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,769	△1,330
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,810	△12,909
現金及び現金同等物の期首残高	48,873	54,524
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	373	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 43,437	※1 41,614

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	<p>当第1四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)</p>
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更 請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用していましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を当第1四半期連結会計期間より適用し、当第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、工期のごく短いもの等については工事完成基準を適用し、その他の工事で当第1四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を適用しております。 これによる、売上高、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。</p>

【表示方法の変更】

	<p>当第1四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)</p>
(四半期連結貸借対照表関係)	<p>前第1四半期連結会計期間において「製品」「原材料」「仕掛品」、及び流動資産の「その他」に含めて表示していた「貯蔵品」は、「四半期連結財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令(平成20年8月7日 内閣府令第50号)の適用に伴い、当第1四半期連結会計期間から「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記しております。なお、前第1四半期連結会計期間の「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ1,804百万円、58百万円、250百万円であります。</p>
(四半期連結損益計算書関係)	<p>前第1四半期連結累計期間において区分掲記していた「法人税、住民税及び事業税」及び「法人税等調整額」は、「法人税等」と一括して掲記しております。</p>
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書)	<p>前第1四半期連結累計期間において区分掲記していた「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「未収入金の増減額」(当第1四半期連結累計期間 0百万円)は、重要性が減少したため「その他」に含めて表示しております。</p>

【簡便な会計処理】

	<p>当第1四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)</p>
繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	<p>繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測を利用する方法によっております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
※1. 有形固定資産の減価償却累計額 48,417百万円	※1. 有形固定資産の減価償却累計額 48,204百万円
2. 保証債務 住宅ローン及びつなぎローン利用によるパナホーム購入者のために提携金融機関（三井住友銀行ほか27社）に対して保証している金額は6,899百万円であります。	2. 保証債務 住宅ローン及びつなぎローン利用によるパナホーム購入者のために提携金融機関（三井住友銀行ほか26社）に対して保証している金額は7,343百万円であります。

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)																				
※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。 (単位：百万円) <table border="0"> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>1,194</td> </tr> <tr> <td>販売促進費</td> <td>1,788</td> </tr> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td>4,786</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>234</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>759</td> </tr> </table>	広告宣伝費	1,194	販売促進費	1,788	従業員給料手当	4,786	退職給付費用	234	賞与引当金繰入額	759	※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。 (単位：百万円) <table border="0"> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>846</td> </tr> <tr> <td>販売促進費</td> <td>1,600</td> </tr> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td>4,646</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>359</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>750</td> </tr> </table>	広告宣伝費	846	販売促進費	1,600	従業員給料手当	4,646	退職給付費用	359	賞与引当金繰入額	750
広告宣伝費	1,194																				
販売促進費	1,788																				
従業員給料手当	4,786																				
退職給付費用	234																				
賞与引当金繰入額	759																				
広告宣伝費	846																				
販売促進費	1,600																				
従業員給料手当	4,646																				
退職給付費用	359																				
賞与引当金繰入額	750																				
2. 当社グループでは、建物の完成引渡し第2四半期・第4四半期に集中することから、通常、第1四半期の売上高の割合が相対的に低くなる傾向にあります。	2. 同左																				

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)																
※1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年6月30日現在) <div style="text-align: right;">(単位:百万円)</div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金預金勘定</td> <td style="text-align: right;">25,457</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△20</td> </tr> <tr> <td>取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)</td> <td style="text-align: right;">18,000</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">43,437</td> </tr> </table>	現金預金勘定	25,457	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△20	取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)	18,000	現金及び現金同等物	43,437	※1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年6月30日現在) <div style="text-align: right;">(単位:百万円)</div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金預金勘定</td> <td style="text-align: right;">19,614</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)</td> <td style="text-align: right;">22,000</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">41,614</td> </tr> </table>	現金預金勘定	19,614	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)	22,000	現金及び現金同等物	41,614
現金預金勘定	25,457																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△20																
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)	18,000																
現金及び現金同等物	43,437																
現金預金勘定	19,614																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-																
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)	22,000																
現金及び現金同等物	41,614																

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成21年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数
普通株式 168,563千株
2. 自己株式の種類及び株式数
普通株式 485千株
3. 配当に関する事項
配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年4月27日 取締役会	普通株式	1,260	利益剰余金	7.5	平成21年3月31日	平成21年5月28日

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

当社グループの事業内容は、工業化住宅「パナホーム」の製造・施工販売及び戸建分譲住宅・宅地の販売等を行う住宅事業のみであるため、記載しておりません。

当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

当社グループの事業内容は、工業化住宅「パナホーム」の製造・施工販売及び戸建分譲住宅・宅地の販売等を行う住宅事業のみであるため、記載しておりません。

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

全セグメントの売上高の合計額及び全セグメントの資産の合計額に占める日本の割合が90%を超えているため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

該当事項はありません。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

海外売上高が連結売上高の合計額の10%未満であるため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成21年6月30日)

前連結会計年度の末日に比べて著しい変動は認められません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)		前連結会計年度末 (平成21年3月31日)	
1株当たり純資産額	670.91 円	1株当たり純資産額	693.93 円

2. 1株当たり四半期純損失金額

前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	
1株当たり四半期純損失金額	18.83 円	1株当たり四半期純損失金額	16.04 円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
四半期純損失(百万円)	3,166	2,696
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(百万円)	3,166	2,696
期中平均株式数(千株)	168,138	168,082

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計を適用しているもの以外のデリバティブ取引はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

当第1四半期連結会計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。また、リース取引残高は前連結会計年度末に比して著しい変動は認められません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年8月6日

パナホーム株式会社
取締役会 御中

監査法人 トーマツ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中村 基夫 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 池田 賢重 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパナホーム株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、パナホーム株式会社及び連結子会社の平成20年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年8月4日

パナホーム株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中村 基夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池田 賢重 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパナホーム株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、パナホーム株式会社及び連結子会社の平成21年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。